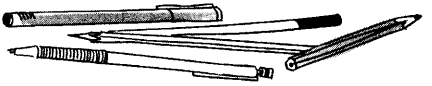
雪嶺集

〈宮坂静生　鑑〉



甃

小林貴子

ひしひしと露の玉分け甃（羽黒山）

露けしや鈴もて背なを祓はるる

ひれ伏して祓はるるなり豊の秋

神木の新の鉛筆冬立てり

初氷楡の木かげに立つ少女

まだ途中白鳥が田に一休み

武蔵野を語りて秋の深まりぬ（十一月三日）

黄落やまろき音色のバンドゥーラ

巌窟の王は鬼房冬に入る（松島）

冬麗や仙石線はふいに海